第３回　文化会館整備検討委員会議事録（概要）

日時：平成２３年7月２５日（月）
１３時３０分
場所：議会委員会室

〔出席者〕	高谷時彦委員　佐藤進委員　山田登委員　前田勝委員　菅原一浩委員 小林功委員　渡部巌委員　大久保紀子委員　柿崎泰裕委員　齋藤瑞穂委員 三浦譲委員　村山智昭委員 教育長　教育次長　社会教育課長　文化主幹　建築課長 芸術文化主査　芸術文化係長

１．開　　会（主幹）
２．あいさつ（委員長）
３．報告事項（主査）
利用者懇談会について、資料№１と２により報告、質疑応答

委　員　：利用者懇談会で青年団体からも意見を聞くということであったが、今後の予定をお聞きしたい。また、専門委員会の方の進捗状況は。

主　幹　：青年団体を対象とした利用者懇談会は８月４日に予定している。専門委員会については、人選と日程調整をしており、８月中には会議を持ちたいと考えている。

委　員　：検討委員の立場で懇談会、専門委員会を傍聴できないか。どういった議論がなされるのかは必ず参考になると思う。

主　幹　：会議資料についてはまとめてご報告するが、傍聴が可能かどうかは検討させていただき、お知らせしたい。

委　員　：照明は素人にはわからないくらい難しいので、専門委員会で、会館を実際に任されている技術者の方や運営している方たちなど、なるべく多くの専門家の意見を聞いたほうがいい。専門家以外にも照明を使って演劇をする人たちの意見も多く聞いてほしい。使いやすさは音楽か演劇かによっても違うので、多方面から検討し、融通がきく造りにしてほしい。

主　幹　：これから専門委員会の中で意見をいただきながら検討したい。音響や照明

等については、基本計画の段階でどこまで検討するかということもある。来年以降基本設計を予定しているので、その中で設計者と細かく専門的なところの相談をさせてもらいながら、詰めていくことになると思う。

委員長　：この委員会で基本計画をまとめていくことと、基本計画に基づいてさらに細かなことを決めていくのはレベルが違うことだと思うので、そこは理解しながら話し合いをまとめていく必要がある。

委　員　：舞台系と生音系は、ホールの形状からしてまったく違うので、その議論を今後どのようにまとめていくのか、難しい。細かいことは今後専門家に、ということではあるが、たとえば舞台性能を重視するのか、音響を重視するのかは、相反する要素である。どこかの段階で整理しないといけない。

主　幹　：この後基本理念、基本方針についてご意見をいただくが、それを踏まえてどういったホールを目指すか、クラシックを主体とするのか演劇を主体とするのか、その方向性についてはこの会の中で整理させていただきたい。多目的としても何の分野を主体とした多目的なのか、利用者のニーズを踏まえながら検討していただきたいと思う。

委　員　：今日理念を決める、次回方向性を決めるというのは議論する時間が足りない。委員会をもう一回追加して行う必要があるのではないか。音楽系と演劇系の要素両方を兼ね備えることは可能かどうかなどについて、専門委員会の資料にも目を通した上で、最終的に判断していきたい。

委　員　：いろいろな団体から、なるほどと思う意見がたくさん出ているが、これは理念的なものを決めないと収束できないのではないかと感じた。また、デザイン・設計者の選定はどのようにするのか伺いたい。

主　幹　：来年度に基本計画に基づいて設計条件を整理し、選定するわけだが、選定手法についてははっきり決まっていない。最近の公共施設はプロポーザル方式で選定する場合が多いので、その可能性は大きいと考えられる。

委　員　：方向性についてどう判断したらよいか難しいと思っていたので、みんながどういうことを望んでいるのかがわかるこういった資料は大変ありがたい。このような資料は事前に渡していただけると効率よく整理できると思う。

４．議　　事

主　査　：基本理念と施設機能について、資料№３により説明

委　員　：文化会館は芸術文化をするところなので少し夢がほしい。市の総合計画に

も「命輝くまち」という言葉があったが、命輝くまち鶴岡が過去から未来へとつなぐ殿堂しての文化会館とか、鶴岡らしさ、夢を語れるような言葉が付け加えられればいいと思った。それから鶴岡市が合併して新文化会館が現在地に建てられるということで、「もっと広いところに、大きくたてればいのに」と思っている地域の方が少なからずいらっしゃると思う。そこで合併後のシンボルとなるような文化会館を建てましょうというような一文を入れれば、鶴岡市民一体となって前に進んでいけるのではないかと思う。

委　員　：合併した各地域で大事にしている伝統文化をまとめて、ひとつの鶴岡というふうになればいいと思う。

委　員　：順序が逆になってしまうが、どういう文化会館を作るのかという議論の中で具体的な方向性を出し、それを総括して理念を作ればいいのではないか。今度作る文化会館も、今までの利用状況から大きく離れることはないと思う。今日までずっと文化会館を使ってきた状況がすなわち、この地域がいままで積み上げてきた芸術文化活動の形である。それを、私たちがこの検討委員会でどう評価し、位置づけていくか、理念を決めていく上で大事なことだと思う。利用団体からのいろんな意見を全部包括したような施設というのは、大ホール、中ホール、小ホールというようにある程度機能を分けない限りは、音楽、演劇、民俗芸能、それぞれの演出があるので難しいのではないか。鶴岡の芸術文化団体がどういう歩みをし、文化を培ってきたのかというベースを大事にして、その中から取捨選択して、ひとつの決断をしていかなければならない。鶴岡の文化会館は特性をどうするのか、最初から音楽ありき、演劇ありきではなく、民俗芸能などいろんな流れがあることを踏まえて、十分に議論することが必要である。

課　長　：基本理念については、どのような文化会館を建てるかという一番大きい内容をみなさんから検討していただいて、進むにつれて機能のことなどの細かい部分が出てくることになると思うので、最初に基本理念を話しあっていただければと思うがいかがか。

委　員　：事務局案の基本理念、非常にいいまとまりになっていると思う。

委員長　：基本理念について、こういう言葉を付け加えたほうがいいとか、この部分はわからないという質問があったら出していただき、なければ先に進ませていただきたい。これで終わりではなく、次回までに思いついたことがあ

れば出していただき、柔軟にいろんな視点からご意見をお願いしたい。

委　員　：文言についてはもう少し時間がほしい。伝統というものがベースにあり、そこから創造が始まる。ベースは今までの芸術的実績、新しいものの創造がこれからの会館の構想になる。市の計画の「命いきいき文化都市創造プラン」の「命輝く」というキャッチフレーズのように、みんなの夢をつなぐ言葉は大切である。たとえば事務局案では「本市」といっているが、市内にとどまらず外部に発信していくものなので、客観性をもたせ、「命いきいきした文化都市鶴岡市」とか「命輝く鶴岡市には」とか広がりのある言葉遣いをするとよいのではないか。基本的には事務局案でいいのではないかと思うが、もう一度考えたい。

委　員　：20 年位前、鶴岡は演劇が盛んで、文化会館がいっぱいになることもあったと聞くが、最近はチケットが売れず、この先演劇がずっと鶴岡にあるのか疑問になってきた。それは時代の流れであり、文化も違う形のものが産まれてきたり廃れたり、世代によっても考え方も違うと思う。音楽や演劇が文化と思う人もいれば、映画やラジオを文化と思う人もいて、基本理念のなかでは舞台芸術を文化としているが、演劇や吹奏楽をトップにもっていってそれを流れとして作るよりは、文化という広い視点で考えていったほうが時代の流れにそっていけるのではないか。

委　員　：文化会館の利用団体の 70%はクラシックである。鶴岡の特徴として、クラシックの音楽会に人が入るということがある。学生も含め市民が音楽活動をしてお客さんが入るというのは山形県内で特異なこと。クラシックはどんどん廃れてきているので、客も減るはずなのに、鶴岡だけは逆に増えている。鶴岡は横のつながりが強く、学校も一般も横の連携の中で切磋琢磨して育っている。今の文化会館は、機能は古くて多くの問題があるが、ホールの機能以上に人間的な機能が大きいと思う。今の文化会館のように裏方のスタッフが苦労して一緒になって考えてくれるようなホールはめったにない。建物が変わると人的な機能が失われるということがよくあるが、今の鶴岡の音楽が育ってきているのは、人的機能によるものと思っているので、理念の中に、「育ってきたものを失わない」と、「ここまで育ってきたものを伸ばしていく」というような意味のことが入るといいのではないか。資料の「目指す施設の方向性」の中には「市民活動に対応する施設」とあったが、そういった基本的な部分を押さえ、今頑張っている市民各層

がもっと頑張りたくなるようなそういう意味で使い勝手のいいホールにしてほしい。

委　員　：羽黒は地域の芸術文化の宝庫だと思っているが、それも足踏み状態で伸び悩んでいるように見える。いかにして活性化するかが問題。地方全体が活性化するようなメインテーマがほしい。それによって鶴岡が一本になれるといい。

委　員　：基本理念というものが最初にあって各論に進むのが普通だと思うが、各論の総体的なイメージ、どういうものを作るのかどういう人を対象にするのかがトータルでまとまっていない段階なので、文言がこれでいいのかどうか判断しかねる。抽象的にはいいのだが、この部分の文言をどう各論で描けるのかとなると問題がある。順序は逆かもしれないがイメージで骨組みをしてから、議論の位置付けをしていかなければいけない。専門委員の意見も参考にしながら、各項目の中でこういう方向はどうかと描けた段階でフィードバックする方法はどうかと思う。この案については一応是として、目指す方向性について議論したほうがいいのではないか。それから地域のことについては、私ども合併町村に特別配慮するということは必要ない。合併してもう一市民であるわけなので、専門委員会で出された意見を参考にしながら、市民が使いやすい、市民を中心にすえた形の文化会館を検討していければと思う。

委　員　：市民を育てたものの多くは学校教育なのではないか。文化会館も小中高生の利用が 50%をしめている。未来を作るという意味で教育関係の部分も大事にしていただければと思う。

委員長　：様々な意見が出たが、事務局としてはどうか。

主　幹　：現時点ではこれを是としながら、これから議論をしていくなかで修正が必要な場合は修正していくというようにまとめさせていただきたい。

委　員　：仮に、新しい文化会館が各地の伝統芸能を育てることにどう貢献できるのか、お子さんたちを育てる意味で今まで以上に何ができるのかとか、そういう議論をしていくと理念も変わっていくのでは。この案の理念はかなり一般的な感じがする。収蔵品を持たず、新しい美術館概念で、市民の活動の結果を展示していこうというアートフォーラムの前の場所にできる意味も非常に大きい。市民活動が育っていって新しい文化都心を作る総決算ではないかと思う。それが合併地域にどう受け入れられるのかも含めて議論

していくと、非常に鶴岡らしい文化会館の理念ができるのではないか。たとえば基本方針の中で、「内外の優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供すると共に、市民の活発な芸術文化活動を支援する」という、相反する内容が提起されている。興行を重視するのか市民活動を重視するのかという大事な議論がこの方針だとわからない。議論が進んだ後でフィードバックしてはどうか。

委　員　：逆かもしれないが目指す施設の方向性→基本方針→基本理念という流れで議論するのがよいのではないか。「目指す施設の方向性」の（5）環境に配慮した、地域資源を活用する施設　は、事務局としては具体的にどんなことを考えているのか。酒田の希望ホールを視察した際、舞台の装置にかかる経費が大きいという話を聞いたが、こういう施設に自然エネルギーを活用できる技術は無いのか。

文化主幹：自然エネルギーの活用については、これから具体的に計画、設計等を進めていく中で、議論になっていくと思う。また、地域資源の活用としては、地場産の木材の活用なども考えられる。

委　員　：太陽光などの活用はできないか。

文化主幹：太陽光発電、雨水の利用等、自然エネルギー等の施設への活用ということも、当然検討の中に入ってくる。

建築課長：新しく市の施設を整備する際には、環境への配慮というのは常に課題であり、新しい技術についても検証しながら施設整備を進めている。特にこういった大規模な施設は、使うエネルギーも相当大きなものになるので、如何に自然エネルギーを使っていくか、どういった技術を入れられるかは、実施設計まで含めて、大きなテーマになると思われる。

委　員　：関連して、鶴岡市では「森と水の文化都市構想」もあり、そうしたことをテーマにした都市づくりも（総合計画の）計画に盛り込まれて進められているので、鶴岡にふさわしい、木造をふんだんに取り込んだ施設、ということも構想しているのではないか。

７番目の周辺の文教施設との機能的な連携については、具体的にはどういうことを念頭にしているか。８番目の市民参加・協力型を目指す施設というのは、出来た後の維持管理、管理運営をふくめたところと思うが、具体的に説明を願う。

建築課長：地域資源の活用については、鶴岡市森林文化都市ということで、公共施設

についてはなるべく木を使う流れであり、新しい文化会館を作る際も基本的にはそういう流れになると思う。ただ、文化会館は一時的に多くの人が集まる施設であるため法的に厳しい規制がある。音響性能、コスト面、そういったことを総合的に勘案し、出来る限り地元の木を使っていければと考えている。

文化主幹：周辺の文教施設との機能的な連携については、隣接するアートフォーラム、文化施設としての致道館と連携し一体的に事業を行うなどが考えられる。また８番目の市民参加・協力型を目指す施設については、施設完成後の運営面で、例えば酒田市のように、自主事業の運営を市民の参加、ボランティアによる運営企画組織が行うことや、芸術文化団体に管理運営に協力をいただくなどのことも考えられる。

委　員　：「目指す施設の方向性」には、まず誰がどういうふうに使うのかという問題点、現代の問題点、建てる時の問題点、建てた後の運営、ランニングコスト的な問題点と、様々なものが載っている。

順序だてていくと、まず、利用団体が使いやすいホールであって欲しい。次に、出来ればプロも納得するホールであって欲しい。鶴岡は、アマチュアは非常に高いレベルの活動を進めてきたが、プロが定期公演をすることは無かった。プロが納得できる定期公演が出来るということが、次の文化の発展性につながる。それからせっかく文教施設が集積している土地なので、様々な人の交流が図れる施設であってほしい。そして、最後が、運営、経済性である。

基本理念と目指す一つの方向性が、どこかで結びついていかなければならない。例えば、「整備の基本方針」にある「良質な芸術鑑賞を」というのが、目指す施設の方向性には入っていない。そういった順序立てと、目指す施設の方向性の関連性があった方が納得できると思う。

委　員　：「目指す施設の方向性」の（３）利用者にとって快適な設備・空間と（４）ユニバーサルデザインに配慮した誰でもが利用しやすいという項目は、あまりに基本的なことなので、あえて入れる必要があるのだろうかと思う。

委　員　：目指す施設の方向性については、鶴岡では、文化会館のあるべき姿は、多目的にならざるを得ないと思う。音楽のプロにも納得できるものをという一方で、演劇というものも非常に歴史がある。なんとか音楽と演劇のバランスをとっていきたい。確かに、いろいろ調べると、「多目的は無目的」と

いう意見もたくさんある。そこに対して井上ひさしという作家が、多目的ホールというのは貧弱だ、無目的ホールに堕落するのだ、劇場としてしっかりとしたものを作ればコンサートでも演劇でも他の用途にそれなりに通用するのだと指摘していた。

それから、ステージをプロでも使えるものにするとしたら、舞台の袖は広くなければならないが、それを実現させた場合、客席数が問題となる。1,250くらいの席数では、集客力のある人であればいっぱいにはなるが、経済的に合わない。同じステージの広さがとれるならば、客席数は少しでも多いほうが寧ろ経済的なのかもしれない。そういうことも検討しないといけないと思う。今後５０年間ぐらい、長期にわたっていろんな用途に対応できるキャパシティであってほしいので、この目指す施設の方向性の部分に、「将来、長期にわたって活用できる施設」といった文言があった方がいいと思う。

委　員　：「目指す施設の方向性」の（１）音楽・舞台芸術をはじめ多様な市民の文化活動に対応する施設という部分は、現在までの文化会館の利用の経過を見ると、使用頻度の違いはあれ、「開館以来、音楽、演劇などの鑑賞の場、芸術文化団体や児童生徒たちの発表の場などさまざまな文化活動の拠点施設として、さらに講演会、式典、集会などの場として、多くの市民に利用されてきた」と第１回の委員会において現状の説明があった。

　それならば、極めて特徴的なことを目指すというのであれば話は別だが、そうでない限り、それぞれの分野について十分配慮し、あるいはプロの専門家もある程度納得できるような「多目的なホール」が良いのではないかと思う。

基本理念の中の「舞台芸術を中心とした芸術文化活動をさらに促進し」の部分に、「多様」を付け加えて「多様な芸術文化活動」としてはどうか。“多様な”が入るか入らないかだけでも、理念を考える段階で望む形が違ってくるのではないかと思う。

委　員　：例えば、人を育てるにしても、世界一音響のいいホールで子供たちを育てるとか、そういう形での特徴づけのある理念があった方がいい。今、具体的なことは無く議論しているが、例えば生音でいくのなら、世界の演奏者が来たいと思うものを小さくても打ち出していくとか、演劇に特化するにしても、どうしてもここで指導をしたいと思わせるくらいのものにすると

か、そういう意味での理念が出たほうがいい。音楽系と演劇系のものが両方あればいいのだろうが、おそらくは敷地の関係でとてもそんな余裕はないと思われる。あの敷地にどれくらいの規模のものが入るかについて、どこかの段階で提示してもらえば、具体的な議論になるのではないか。リハーサルができるところが舞台に近いところに欲しいなどの具体的な話になっても、この比較的狭い敷地、高さ制限、隣に致道館という条件の中で、可能なのかどうかわからない。例えば、中小２つのホールは無理だとか、1,500 席は難しいとか、そういったことがわかれば議論は進むのではないかと思う。今年度中に結論をだすのであれば、その方が実りがあると思う。

委　員　：同意見である。以前の資料（※第１回、資料 No３の検討結果）に現在の敷地に酒田の希望ホールを重ねた図面があったが、これを見る限り、商工会館の部分も含めれば、そう狭くもないと思う。産業会館のことを議論していいのかわからないが、あまり時間もないので、ある程度示してもらえれば議論が進むのではないか。

委員長　：（資料 No３の）施設の整備方針（素案）ということで、施設機能（１）の例示という形でしか示されていないが、ここの部分に、どういう機能を求めていくか。先ほどから、多目的であるとか、音楽、音響重視であるとかのご意見がでている。それだけではなくて多様な使い方もあるのではないかという意見もあった。具体的にどういう機能を持つようにしていくか、ここに何項目か出てきていいのではないかと思うが、いかがか。

委　員　：私は、オペラハウスに近いものをコンセプトにと思っている。コンサートホールは音が響き過ぎて、例えばテンポの間合いや、言葉が明瞭ではなくなる、細かいパッセージが聞こえなくなるといったことがある。オペラハウスはそこまでは響かない。そういった言葉の関係と音響の関係が、オペラハウス的な感覚でもてないかと考えた。凄いクラシック専門の音楽ホールよりは、多少いろんな事が出来るホールの方が、この鶴岡には相応しいのではないかと思う。

委　員　：いろんなイメージがあっていいとすれば、それぞれが非常に良い内容の小さいホールがいくつか集合している形態のものも考えられる。鶴岡のような育てる文化、あるいはアートフォーラムを作ってきた市民性、そういう育てるホールというイメージからすると、大きなホールを作って、それを可変させるとなると大変な維持費がかかる。生音系と音楽系はまったく機

能が違うので、可変装置も相当な大きさになってしまい、ものすごいお金をかけて動かさないといけない。

委　員　：生音といっても、単純な四重奏と、ピアノの独奏とオーケストラではまったく違うと思う。一つのものだけに絞りこんでいくのは、どうかと思う。

委　員　：例えばブラスバンドというのは、もともと外で演奏するものなので、吸音性が高い方がいいと言う人もいるくらいである。右の端の音と左の端の音を共存させようとすると、相当大掛かりなものになり、専任のスタッフを置かなければならないほどになる。それよりは小さなものの積み重ねという手もあるのではと思った。

委　員　：文化活動の施設ですので、ぜひ幅広い市民の交流を図るうえでも、ホワイエ、エントランスホールの充実を願いたい。

委　員　：酒田市希望ホールを視察させていただいた際、担当者が実際に使ってみて、感じていることを率直に述べてくれたが、それらは非常に参考になるので改めて紹介する。まず、主眼をどこに置くか。それから、営利ではなく、市民の文化振興のための文化ホールであること。日本一を目指したわけだが、日本一のものは作るべきではないという話。それから実際の設計では、動線をよく考えることが大切だ。関連するランニングコストのことも考えるべき。２階（席）は無いほうがいいのではないか。全国のものを招聘できるような施設に。その一方で、使いやすさ重視の施設でもいいのではないかと。

委　員　：広さとして上限でどのくらいのものが出来るのか。産業会館の件の進捗状況は。

文化主幹：配置の中で、どのくらいまでプランニングできるのかについては、まだ、具体的になっていない。この基本計画の策定支援をお願いするコンサルをの選定手続きを行っているところであり、コンサルが決まったら具体的な作業を進めていきたいと考えているので、もう少し時間を頂戴したい。もう一点の商工会議所の土地の利用については、市長も議会で答弁しているように、商工会議所さんからご理解を得られればということで、申し入れをさせていただいている状況である。

委　員　：ホワイエを充実させた方がいいと話があったが、ロビーから琵琶湖がみえるなど、ロビーからの景観がそのホールの特徴になっている例がある。鶴岡でも施設の中からの景観がいいホールを考えては。

委　員　：施設機能、求める機能の一つだが、人に優しく、体に負担が少ないよう、スロープを昇っていくと２階になっている、１階に降りているというような形態のホールもいいなと感じている。

委　員　：デザイン、設計者の決定権は大きいと思う。大まかなデザイン的なところを決めて、その上で、設計者が出来ないこと、出来ることを選別するのも、一つの手だと思う。また、デザイン的な簡単なものなら、市民から公募することも考えてもいいのでは。

委　員　：ここまで何度か設計のことが話題になっているが、設計者を早めに決めてしまうことは出来ないのか。敷地の狭さ、高さ制限などとなると、ある程度専門の方が必要ではないかと思う。

それから、何のために、どういう文化会館を建てたいかが理念である。今まで志を繋いできたがためのこの文化水準がある。何のために文化会館を作るのか決めてからでないと、前に進まない。

委　員　：今回の設計は、プロポーザルでやるのか。プロポーザルというのは、こちらから注文したことに応えていただく、提案をしてもらうという方式ではないのか。

建築課長：一般的には設計者を選ぶにはプロポーザル方式とコンペという方式がある。コンペは一定の設計条件の中で設計案を複数出してもらい、どの設計案がいいかを選ぶもの。コンペの場合は作品を選ぶので、作品、設計内容を後から打ち合わせで大幅に変えるということは難しい。選んだものを途中で否定していくことになるし、案を出してもらうにもかなりの労力を要する。本市でいえば、大きな施設の場合は、プロポーザル方式を採っている。プロポーザル方式は、コンペが作品を選ぶのに対し、人を選ぶ。設計を担当する方の過去の実績や、類似のホールの設計実績、新しい文化会館に求める機能、テーマなどをどのように考えているか形も出してもらい、その考え方から選ぶとも言える。よって、プロポーザル方式といっても、こちら側が文化会館に求めるもの、施設像が一定程度無いとテーマ設定もできない。今年度ここで基本的な方向性、基本方針を出していただいた後に、来年度、プロポーザル方式を採るのかどうかを決定することになる。

委　員　：設計者を人で選ぶことに賛成である。この文化会館も、最後は人づくりである。未来に向けて、未来を担う世代を育成していくこと。頭や物、金が先に立っては、良いものが出来ない。

委員長　：多様なご意見をいただいたが、鶴岡の文化会館という、いままでの鶴岡の文化を育んできたものを受け止めて、これからの鶴岡の素晴らしい人たちを育てていく、文化性豊かな文化会館を作っていく。それには、こういう点が素晴らしい、こういう点が工夫された文化会館だということを皆さんから理解していただけるような文化会館を検討しているのだ、作っているのだと言えるようにまとめていく。

ある程度は多目的になるかもしれないが、多目的にしても特色を明確にしていく、それにあった設備を整えていく、そういったご意見が多かったと思う。今回の多様な意見を事務局から適切にまとめていただき、それを事前に送付していただきたい。理念、方針等の今回の議論はここまでとする。

（２）資料４と５、第二回検討委員会の概要について、問題なければホームページに掲載するとのことだが、よろしいか。

委　員　：一つ確認だが、視察の部分で、利用回数はプロの方の公演も、市民の公演も含めた回数か。鶴岡の文化会館は、プロよりも市民の利用が多いが、こちらではどうかという部分は、このままでよろしいのか。リハーサルも含めた回数かと聞いたかどうかはっきりしていないので。

社教課長：確認する。

委員長　：無ければ、いまの点を確認した上で、ホームページに掲載するということで、ご了解いただきたい。

次回の委員会について、事務局から日程の説明を。

主　査　：８月２９日月曜日、午後１時３０分でいかがか。

委員一同：了承

委　員　：８月の委員会も含めて、今回の議論をもう一度した方がよいのではないか。

委　員　：資料は事前に送付いただいているので、当日に配布は不要ではないか。

主　査　：できるだけ無駄のないようにしたい。

文化主幹：当初第４回の会議は、施設の概要についてと、管理運営についてを予定していたが、次回の内容のうち、管理運営については第５回にまわすこととし、回数についても検討し、次回にあらためてお諮りしたい。

委員長　：会議を終了する。

５．閉　会

教育長挨拶